バイト探しは「タイパ」ワーク

大学生、いい時給より「近くのコンビニ」

コロナ経て「移動が面倒」

新型コロナウイルス禍を経て、学生のアルバイト選びに変化が起きている。時給よりも通勤時間や勤務場所を重視するようになった。オンライン生活が続き、移動を面倒なものと考えるようになった若者たち。近くにあって、時給もそれなりで「タイパ（タイムパフォーマンス）」が良いと、自宅近くにあるコンビニエンスストアなどがバイト先として人気になっている。

「家から近くて通いやすいところがいい」

産業能率大学に通う女子学生（21）は、高校1年生から6年間、自宅近くのハンバーガーチェーンでバイトをしている。現在の時給は1200円。「これより時給がいいバイトがあっても、通勤時間が1時間かかるのであれば時間がもったいない」。同じバイトを続けているのも「（新しく探す必要がなく）効率がいい」という考えからだ。

桜美林大学に通う女子学生（21）も「普段の遊び場や自宅に近い場所を選んだ」。現在は東京・六本木のレストランなど3つのアルバイトを掛け持ちする。「いずれもシフトの提出は1週間前。予定が調整しやすい点が決め手」。今の職場は髪色など身だしなみも自由なため、学校帰りや友人と遊んだ後にそのまま働けるのも魅力という。

リクルートの調査研究機関「ジョブズリサーチセンター（JBRC）」が学生（大学院生、大学生、短大生、予備校生、専門学校・各種学校生、高校生）を対象にした2023年1月の調査によると、1年以内にバイト探しをしたことがある人が重視した項目は、「勤務時間帯（60・4%）」、「通勤時間（通いやすさ）」（57・2%）、「勤務地」（56・7%）の順。このうち通勤時間と勤務地は18年調査より10ポイント以上上昇し、「給与」（18年調査は49・5%、23年は49・3%）を上回るようになった。

通勤時間や勤務地を重視する志向を受け、アルバイト先選びにも変化が出ている。23年の同調査で、高校生を除いた「大学生等」が「1年以内に探したアルバイト」で最も多いのが「コンビニ・スーパー店員」（24・2%）。18年調査に比べ、6・0ポイント上昇した。

JBRCによると自宅や学校周辺など働きたいエリアにあるケースが多いことが理由として考えられる。ローソンでは23年2月時点でバイトに占める学生の割合が25%で、1年前と比べて5ポイント上昇した。

アルバイト先で3位に入った「塾講師、家庭教師、採点」（19・5%）も18年調査比で7・9ポイント上昇。JBRCの宇佐川邦子センター長は「自宅で講師として働けるオンライン塾が増えたことなどが要因」と指摘する。

学生が移動時間が短いことを重視するようになった背景には、新型コロナの影響がある。宇佐川センター長は「オンラインで授業が受けられるようになり、学生にも『通勤時間が無駄』という考えが広がっている」と話す。通学が減った結果、「交通費がもったいないとも考えている」。

働きたい時だけ働くといった点からの効率性も求める。「タイミー」などの隙間時間を使ったバイトを探せるサービスの登場・普及もこうした動きを後押ししている。

3月まで明治大学に通っていた男性（22）は卒業までの数カ月は、コンビニバイトをしていた経験をいかし、「タイミー」を使って別のコンビニ店でバイトをした。「卒業旅行や遊びの予定が重なるなか、ふと生まれた隙間時間でお金を稼ぐのにちょうどよかった」

もちろん、効率志向になっているのは、バイトで一定の稼ぎが得られるようになったためだ。最低賃金の上昇や人手不足で平均時給は上昇。JBRCによると、23年2月の三大都市圏のアルバイト・パート募集時の平均時給は前年同月比24円増の1142円だった。

東京都の最低賃金は22年で時給1072円。長期的にみると、20年前と比べ300円以上、10年前と比べても200円以上増えている。宇佐川センター長は「学生はある程度の給与を得られる前提で、仕事を選べるようになっている」と指摘する。近くで一定水準の時給の仕事にありつけるなら、時給が多少高くても、わざわざ遠くへ行きたいとは思わないわけだ。

学生アルバイトが集まりにくい繁華街やビジネス街の店舗は、人を集めるために「それでも行きたい」と思えるほどの高い時給を提示するしかない。ユナイテッド&コレクティブは運営する居酒屋「てけてけ」で、都心部の店舗の時給を高めるなどの工夫している。例えば浜松町店（東京・港）の時給は1450円で、住宅地に近い同業態に比べると200～300円高く設定している。

ただ、時給を上げるのにも限界がある。企業は学生意識の変化に対応することで人手を確保しようとしている。例えば、子供服の西松屋チェーンは2カ月間など短期間限定バイトの募集を21年に始めた。授業の時間割やサークル活動、海外留学など「年間の生活リズムが変わりやすい学生でも気軽に応募できるようにした」（同社）。

同社では実際に働くアルバイト店員のインタビューサイトも開き、なじみのない子ども用品業界に親しみを持ってもらえるよう工夫する。こうした取り組みが奏功し、学生を含む20歳前後の応募数は足元で増加傾向だ。

給食などを手掛けるコンパスグループ・ジャパン（東京・中央）は学生向けに、従来募集していなかった夕方の時間帯だけの求人を実施。授業が終わってから働けることなどを打ち出す。鳥貴族は紹介で働き始めると紹介料や入店祝い金などがもらえる「リファラル採用」をアルバイトにも導入し、友人同士での紹介による採用を狙う。

今どきの学生をとるためには3つのポイントがある。1つ目がシフト変更に融通が利くようにしたり、西松屋チェーンのような短期間限定で募集したりといった柔軟な働き方への対応だ。ローソンは20年から一部地域の店で単発バイトの募集を開始。現在は全国の店舗に広げている。

2つ目が勤務時間帯を細分化した募集だ。例えば、「午後1～11時で3時間以上」とせずに、「午後7～11時」とする。「午後1時～」とすると、「働きたい時間に働けるとは限らないと敬遠する人がいる」（JBRCの宇佐川センター長）。

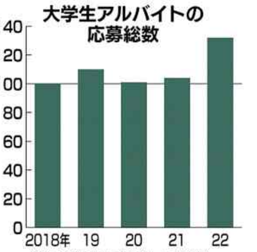
3つ目がバイトの学生に対し、志望企業へのエントリーシートの書き方などを教える就活支援だ。学生バイトの確保策として歴史は古く、例えば個別指導塾の東京個別指導学院は10年から実施。22年からはファミリーマートも始めるなど実施企業は広がっている。

今の大学生は昔と比べ授業にしっかり出席する傾向があるとされるうえに、インターンシップや就職活動などで忙しい。大学3年の6月に「インターンなど就活に専念したい」とアルバイトを辞めた慶応大学に通う男子学生（21）。「今はオンラインの就活が多いため、（志望企業に訪問するための）交通費を稼ぐ必要もない」とまで話す。

統計上は大学生アルバイトの応募総数は増えている。求人サイト「バイトル」を運営するディップによると、22年の大学生アルバイトの応募総数は、18年比で1・3倍に増えている。コロナ禍でバイトを控えてきた学生が、コロナ禍3年目になりバイトを始めようとしていることや、コロナ禍初期に減ったイベント系などの求人が増えてきたことが背景にある。

ただ、バイトの人手不足はコロナ前から起きていた。22年の応募総数増が人手不足を解消するわけではない。その中でコロナ禍を経て登場した「移動したくない学生」をどう確保するか。バイトに頼った経営をする企業はこれまで以上に知恵が求められてくる。

（長田真美、石崎開、加藤彰介、福井支局　津兼大輝）



（注）2018年を100とした指数
（出所）ディップ

学生がアルバイト探しで重視する条件は変化

TOWN WORK
コンビニ
事務
ホテルスタッフ
居酒屋
カフェ
喫茶店
アパレル販売
塾講師
大学生
専・短・大学生のためのバイト探し。
GAKUSEI-BAITORU
学生バイトル Powered by バイトル
大学生歓迎
バイト特集

求人大手各社も学生向けを強化

給与より通いやすさを重視

学生のアルバイト探しの重視項目（絶対条件）

	2018年			2023年	
1	勤務日数（休日、休暇）	54.5%	1	勤務時間帯	60.4%
2	勤務時間帯	52.7	2	通勤時間（通いやすさ）	57.2
3	給与	49.5	3	勤務地	56.7
4	仕事内容（職種）	48.9	4	勤務日数（休日、休暇）	56.3
5	勤務時間数	47.8	5	勤務時間数	51.9
6	勤務地	45.0	6	仕事内容（職種）	50.3
7	勤務期間（長、短期）	43.2	7	給与	49.3
8	職場の雰囲気	40.1	8	勤務期間（長、短期）	46.7
9	就業形態	39.1	9	就業形態	45.1
10	通勤時間（通いやすさ）	38.6	10	職場の雰囲気	41.6

「通勤時間が無駄」という考え方は学生にも広がっている

リクルート「ジョブズリサーチセンター」**宇佐川邦子**センター長

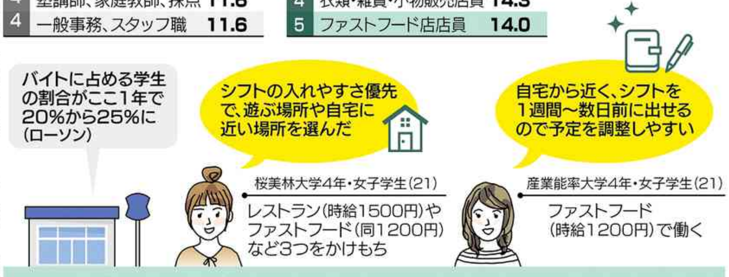
（出所）リクルート「ジョブズリサーチセンター」

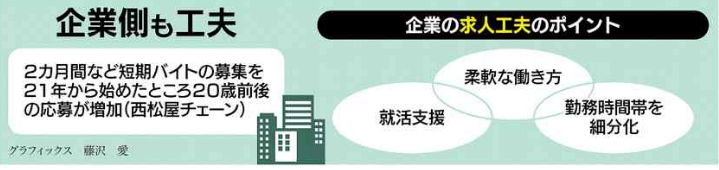
コンビニやスーパーも「ある程度稼げる」と人気が上昇

1年以内に探したアルバイトの仕事内容

	2018年			2023年	
1	コンビニ・スーパー店員	18.2%	1	コンビニ・スーパー店員	24.2%
2	飲食店のホールスタッフ	16.9	2	飲食店のホールスタッフ	21.8
3	ファストフード店店員	15.0	3	塾講師、家庭教師、採点	19.5
4	塾講師、家庭教師、採点	11.6	4	衣類・雑貨・小物販売店員	14.3
4	一般事務、スタッフ職	11.6	5	ファストフード店店員	14.0

（注）対象は大学生等
（出所）リクルート「ジョブズリサーチセンター」


バイトに占める学生の割合がここ1年で20%から25%に（ローソン）
シフトの入れやすさ優先で、遊ぶ場所や自宅に近い場所を選んだ
自宅から近く、シフトを1週間～数日前に出せるので予定を調整しやすい
桜美林大学4年・女子学生（21）
レストラン（時給1500円）やファストフード（同1200円）など3つをかけもち
産業能率大学4年・女子学生（21）
ファストフード（時給1200円）で働く


企業側も工夫
企業の求人工夫のポイント
2カ月間など短期バイトの募集を21年から始めたところ20歳前後の応募が増加（西松屋チェーン）
柔軟な働き方
就活支援
勤務時間帯を細分化

グラフィックス　藤沢　愛

掲載日 2023年4月5日 日経MJ 1ページ ©日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。